にわうるし

柴田学園報
第８号特大号
（年２回発行）

□発行　学校法人柴田学園　〒036-8503　青森県弘前市上瓦ヶ町25番地　☎0172-32-6151

自信を持って笑顔で子どもと向き合う児童学科4年の中村茉由さん

実践力の高い優れた教員をめざして

東北女子大学
学長　小澤　熹

「教育は人なり」と言われているように、何時の時代にあっても、よい教育を実現するためには優れた教員が必要です。

本学は資質能力の高い教員養成を一つの大きな柱として、活発な教育研究活動を行っております。

さて、最近の教員養成方法改善の答申には、①実践的指導力を育成する教員養成カリキュラムの開発、②教育実習や学校現場体験での効果的実施方法の開発等が要望されています。これは、学校現場の教育活動に対する子ども達と保護者の願いや希望の現れでもあるわけです。日々学校で教育に携わっている教員の大多数は、教育的情熱と真剣さを持って、教科指導、生徒指導等の専門家であるための努力をし、実践に励んで、子どもと保護者の信頼を得ているわけです。

しかし、学生時代の勉強不足や実践的教育体験等が少なく、就職後の努力不足も手伝ってか、教員として一番大切な「授業で勝負」できない一定数の教員がいることも事実です。

そこで本学では、教員に必要な学問的専門教育と併行して、それを実際に生かす実践力を強化するため、児童学科四年次の教育実習を行う前と後に、学校教育体験実習ⅠとⅡを正規授業に位置づけ、実施しています。ⅠとⅡはともに終日10日間、計20日間で、教育実習と合わせると38日間の現場体験となります。このことは実習生としても、初任教員としても、笑顔で胸を張り、自信を持って子ども達に向き合える資質能力を育てることに大きな効果を発揮しています。

その証の一つが、各地の教育委員会が示してくれる本学卒業生に対する信頼と採用試験合格者数にも明確にみられています。

本誌４頁の「快挙!!教員採用試験22名現役合格」を合わせてご覧いただければ幸いです。

学園事業 地域交流

■平成26年3月・4月 学園行事のお知らせ

弘前市民会館の改修工事完了に伴い、大学・短大・栄専・コンピュータ4校合同の入学・卒業式が下記日程で行われます。
また、各校の予定も次のようになっています。

- 25年度卒業式／柴田高校　3月3日（月）10時　同校体育館
- 25年度卒業式／四校合同　3月15日（土）10時　弘前市民会館
- 25年度卒園式／柴田幼稚園　3月18日（火）10時　同園ホール
- 26年度入学式／四校合同　4月5日（土）10時　弘前市民会館
- 26年度入学式／柴田高校　4月7日（月）10時　同校体育館
- 26年度入園式／柴田幼稚園　4月10日（木）10時　同園ホール

学園旗が完成 ～学園創立90周年記念事業～

12月に教職員を対象に、学園旗が復元作業後はじめてお披露目されました。
１９３６年製作の旧学園旗を京都の住江織物㈱京都美術工芸所で約４ヶ月をかけ、色や刺繍など原作を忠実に再現しました。鮮やかによみがえった学園旗は今後、卒業式や入学式等の行事で使用される予定です。

■施設設備の充実を図る

東北女子大学
・学生２人掛け机58卓・学生個人椅子１１６脚更新。

東北女子短期大学
・学生個人椅子２７０脚更新。スチームコンベクションオーブンを導入。

東北栄養専門学校
・調理実習室ビルトインコンロ・オーブン３台更新。

東北コンピュータ専門学校
・ＯＡチェア20脚更新。

柴田女子高等学校
・55型液晶テレビを導入。

柴田幼稚園
・園庭の整備（遊具２台・腰かけ動物更新）

■東北女子大学 入試制度の一部変更について

平成25年度入試からセンター試験利用入試を導入しており、平成26年度からは受験時の利用科目の一部と募集人員が変更になりました。必須科目は従来通りの「国語」で選択科目は、「英語（リスニングは課さない）」、「数学Ⅰ」、「数学Ⅰ・A」から1科目の選択、募集人員は両学科合計で10名程度となります。また、平成27年度以降の推薦入試の出願条件に、「全体の評定平均値３・５（程度）以上」を加えることにより、明確な出願条件を提示できるようになりました。

■東北コンピュータ専門学校 26年度より適性証明入学を実施

近年、年度末ぎりぎりに大学進学を変更して本校に受験するケースが多くなっているため、コンピュータ校独自の入試制度となる「適性証明入学」を設けました。選考方法は面接のみで、センター試験が大学を受験したことを証明できる書類の提出が必要です。
この３月から募集を開始する予定で、受験生の急な進路変更にも対応できるようになりました。

柴田高校旧体育館・生徒会館を解体して 跡地に生徒用駐輪場を整備

改修後はすっきりした景観に

昨年の夏休み期間を利用して、老朽化した柴田高校第２体育館と生徒会館を解体しました。体育館解体跡地は駐輪場として活用されています。
また、旧体育館の奥にあった第一体育館が道路からはっきり見えるようになり、夜になると「SHIBATA…」の文字がライトアップされ通る人の目を引いています。

コンソーシアム支援補助金対象事業 保育講座「マザリーズ教室」開かれる

８月４日柴田幼稚園において、短大保育科研究室主催のマザリーズ教室が開かれました。当日は親と一緒に２ヶ月から１歳の赤ちゃん15組と学生24名が参加。
赤ちゃんの愛らしさにいやされながら、マザリーズ（語りかけ）を体験しました。名古屋市在住の児玉たまみ、嶋田ひろみ、若子理愛子先生を講師に、赤ちゃん体操、ママのストレッチ、大型絵本の読み聞かせで、楽しく過ごしました。

お話と音楽で見る「ぞうくんのさんぽ」

学園都市ひろさき高等教育機関 大学コンソーシアムの地域とのかかわり

「弘前市の活性化を考える」 ６大学生がヒロロで共通授業を受講

10月10日から12月12日まで毎週木曜日に、大学生を対象にした「平成25年度共通授業」が弘前市との共催で行われました。10回の授業は、「地域が抱える課題とは？」をテーマに、市長はじめ弘前市各部長の講義やグループディスカッションで進められ、のべ47名が参加。学園からも女子大２名、短大４名が受講し、その中の一人は「普段住んでいる町の知らない部分に触れ、価値観や地域への関心が変化した。良い体験になった」と話していました。

教育と研究

研究成果を発表

第４回・世界遺伝子大会 ２０１３

東北女子大学准教授土谷庸先生が11月13日～15日に中国海口市で開催された第４回世界遺伝子学会２０１３（BIT's 4th World Gene Convention-2013）にて、「プロテオグリカン：その利用と消化管での吸収」というタイトルで口頭発表を行いました。
膝関節症治療剤や美容品など、アンチエイジングの面で最近注目を集めているプロテオグリカン。本学では２０１１年度より民間企業との共同研究として、プロテオグリカンを飲用した際の消化管吸収をテーマにした動物実験を実施しています。先生は「国内での学会発表に加え、今回の国際学会で国外研究者にも興味深いデータを紹介出来た事は大きな収穫でした。」と語っていました。

日本消化吸収学会賞を受賞

東北女子短期大学講師の柳町悟司先生が、10月10日に東京高輪のホテルで行われた第44回日本消化吸収学会において、卓越した研究発表に送られる学会賞を受賞し表彰されました。
対象となったテーマは、「^{13}C-グリココール酸呼気試験による高齢者と非高齢者の大腸内細菌数の比較に関する研究」（学会雑誌「消 化 と 吸 収」Vol.35 No.3・12掲載）。
９人の共同研究者（弘大医学部、同附属病院、弘前中央病院、板柳中央病院、弘前市立病院の医師ほか）から高齢者のデータ提供を受け、それを解析し、論文に完成させたものです。これまで取り組んできた研究業績が認められ、先生は「これを励みに一層精進したい」と、喜んでいました。

実験室で講義をする柳町先生

八重樫裕幸コンピュータ校 教諭が医学博士号を取得

日頃コンピュータ校で情報系の授業を受け持つ八重樫先生は、前職の医療・福祉系で統計を利用した研究を行っていました。そしてこの度、弘前大学院医学研究科で博士（医学）を取得されました。論文タイトルは「Diets of obese and non-obese older subjects」（肥満高齢者と非肥満高齢者のダイエット）です。

東北女子大学で 「アスリートランチ」を開発

青森県ライフ系プロダクト開発促進事業費を受けて開発したアスリート向け弁当２種類が、１月14日から市内の弁当販売店（小銭亭）で販売されています。
加藤学部長と前田講師、山田助手の指導のもと家政学科３年生７名が中心となって考案したもので、アスリート競技力の向上をサポートする栄養バランスの整ったランチになっています。今後は全県で展開します。

県産品と旬の食材にこだわったボリューム満点ランチ

2013　東北女子大学・東北女子短期大学　紀要５２号　掲載論文

小澤　　熹・山﨑　祥子・岩見　禎二・崎野三太郎・吉田裕美子
：「学校教育体験実習Ⅰ・Ⅱ」に関する実践研究
～教育実習の事前・事後体験教育の検討～

加藤　秀夫・前田　朝美・齋藤　　望・花田　玲子・山田和歌子・出口佳奈絵・苧坂　枝織・西田　由香
：時間栄養学から食育を科学する（総説）

尾﨑　康弘・高橋　信進・花田　玲子
：家政数学導入の試みⅡ　―アンケート調査結果を中心として―

西山　邦隆・山田和歌子
：「賞味期限切れ」の食品は、いつまで食べられるか

佐々木典彰・島内　智秋・森　　和彦
：保育・教育実習生の共感力を高めるための自己評価に関する一事例における考察

松宮　ゆり・宮本　万里
：味覚検査とその考察　―同年齢及び年代別の検査結果から―

蓮井　裕二・富田　雅弘・木村麻衣子
：アルギン酸添加リンゴジュレによる便秘改善効果について

蓮井　裕二・土谷　　庸
：減塩と粘性を備えた機能性しょう油による塩分摂取及び吸収抑制効果について

中島　里美・真野由紀子
：栄養士養成課程における献立作成の基礎力向上を目指して（第２報）　―体験型学習法の検討―

安田　智子・澤田　千晴・宮地　博子・北山　育子
：栄養士養成校の学生における調理実習の指導方法に関する研究
―習熟度自己評価と設定目標から―

田中　　恵：幼児体操の特性と内容構成に関する研究（第１報）
―戸倉ハル考案の幼児体操の取り組みと学生の意識について―

今村麻里子：惣菜パンのレシピ提供　―社会福祉法人との連携活動―

奈良　拓哉：不要になったパーソナルコンピュータの活用について～電子看板への転用～

諸岡みどり：給食を目的とした真空調理法によるブロッコリー調理および官能評価

兼平　拓道：パナソニックの企業分析（Ⅲ）　―多国籍化と組織戦略―

崎野三太郎：女子大学生の算数と数学に対する印象の調査

兼平　友子：学びにつながる保育空間とは　―オランダの幼児教育法からⅡ―

工藤　寧子：３次元着装シミュレーションと被服実習との関係（1）

中山　寛子：リトミックに関する研究Ⅰ
―天野式リトミック指導者養成講座内容をふまえて―

澤田　千晴・安田　智子・下山　春香
：青森県における行事食に関する調査研究　―津軽地域のお盆の行事食について―

鎌倉ミチ子：青森縣師範学校編輯「養生抄言」の一考察―主に栄養・食生活の観点から―

保村　和良：日本の近代教育に貢献した『ウヰルソン・リーダー』と明治初期に於ける教科書　―和徳小学校で使用された『小學讀本』の一致点と比較―

福士　光俊：一戸直蔵　津軽が生んだ国際的天文学者

佐々木　隆：日本国憲法の前文から30条までの基本的人権規定を読む
法学教育からナラティブな法教育への試み

学園ニュース

東北女子大学

快挙!!教員採用試験22名現役合格 15年ぶり青森県2名合格

今年度学内最大のニュースは、青森県教員採用試験（小学校）に、最終合格率9・5倍の難関を突破し、現役2名が合格を果たしたことです。全体では、一次試験を通過した25名のうち22名が左表の受験地で合格。この他フルタイム講師5名の採用も決まり、大きな話題となりました。

受験地	合格者数
青森県	2
神奈川県	5
千葉県	7
東京都	1
埼玉県	3
横浜市	2
さいたま市	1
京都市	1

児童学科小学校課程履修者45名の中には、すでに幼稚園教諭として内定を得ている者もおり、初等教育、幼児教育の場での活躍が期待されます。

近年、取得した免許を活かして就職する者が、家政・児童両学科とも8割を超えるようになっていますが、今年も栄養士や保育士の内定が順調に推移しています。

就職率の高さは、後輩に希望と励みを与えます。夢が叶い、現場に立つ春を待ちわびる学生たちの笑顔で、学内は明るく輝いています。

「共同開発パン」第2弾 訪問販売でも反響上々

今年も知的障害者就労支援施設「エイブル」と共同でおかずパンの試作に取り組み、「きんぴらおからバーガー」（150円）と「Wほうれん草カレーパン」（120円）の新作パン2種類が11月14日に完成しました。

学生へのアンケート結果がもとになり、食べごたえのあるヘルシーな惣菜パンができました。週に一度のエイブルによる訪問販売日には、学生ホールに学生や職員の長蛇の列ができ、賑わっています。

二十歳の祭典 華やかに

平成26年1月12日（日）、リニューアルしたばかりの弘前市民会館において、厳粛な中にも華やかな成人式がとり行われました。

式の中で、栄養専門学校2年三上祥平さんと児童学科2年の平山瑠美子さんが「市民憲章」を朗読しました。

平山さんは、これまでの経験や周りへの感謝の気持ち、将来に向けての抱負や夢を述べ、大人としての責任と決意あふれる態度で立派に代表の役目を果たしていました。

抱負を述べる平山さん

柴田女子高等学校

バスケットボール部健在 二つの県大会で優勝

昨年10月19・20日に開催された青森県総合選手権大会では、2年生が修学旅行で参加できず1年生だけで試合に臨みましたが、決勝戦で見事青森中央学院大学を破り、次のスコアで優勝を飾りました。

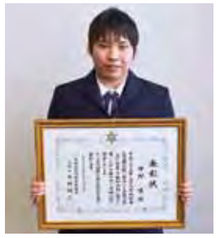
【準決勝】
柴田女子　73－39　S－G
【決　勝】
柴田女子　54－48　中央学院

また、11月16・17日に行われた青森県高等学校新人大会（Aブロック）でも優勝を果たしました。

【準決勝】（Aブロック）
柴田女子　107－30　青森南
【決　勝】（Aブロック）
柴田女子　96－38　八戸商業

人命救助で弘前消防署より表彰を受ける

豪雨に襲われた昨年8月9日、岩木川内に女性が横たわって動けなくなっているのを2年中野咲さんが見つけて警察へ通報。消防署員が救助し、病院に搬送しました。救助された女性は左足を折る全治3カ月の重傷でしたが、命に別状はありませんでした。このことで中野さんは、弘前消防署より人命救助功労者として感謝状を授与されました。


感謝状を手に中野さん

東北女子短期大学

生活科2年がマーケットで食育活動

地域の方々の健康づくりに役立ちたいと、生活科2年が「栄養士実務演習」の中で、3回にわたり市内のユニバース城東店で食育活動を行いました。

テーマは12月7日「一日に必要な野菜の量と働き」、12月21日「あなたの家のみそ汁の塩分は?」、1月25日「体を動かして健康になろう」で、毎回10人ずつ、2時間ほど活動しました。

会場の「くつろぎコーナー」に立ち寄ったお客さんや子ども達に、絵やパネルを使って具体的に説明したのでとても分かりやすかったようです。栄養士の幅広い活動を理解するいい機会となりました。

トマトはどんな働きをするかな？

専門学校

東北栄養専門学校
2年「学習成果発表会」

新しい試みとして昨年5月に開催した「学習成果発表会」は、「壮年期の栄養」をテーマに保護者アンケートから問題点や改善点を探り、媒体やクイズで発表。昼食も好評で生徒の大きな自信となりました。

保護者を迎えて堂々と発表

発表会を実施したことで生徒の成長を保護者に理解してもらうよい機会となり、26年度も実施する予定です。

米粉料理レシピコンテストで全国決勝大会へ

1月26日「第一回全国米粉料理レシピコンテスト」北海道東北地区決勝大会において、2年津山桂子さんが優秀賞「米粉だんごのけの汁津軽バージョン」、藤根英里沙さんが敢闘賞「青森と宮城をつなぐ～米粉クリームコロッケ」を受賞しました。津山さんは3月に女子栄養大学で行われる全国大会に出場する予定です。

甲子園野球キャッチフレーズコンクールで見事グランプリ

2年相馬冴えさんの「キラキラ輝く　君の夏」が第96回全国高等学校野球選手権大会のキャッチフレーズコンクール（朝日新聞社主催）で、全国3420点の応募の中から最優秀賞のグランプリに選ばれました。本校初の快挙で、このフレーズは今夏のポスターに使用される予定。相馬さんは今年の夏の甲子園に招待されることになっています。

「高文祭」「りんり俳句大賞」で入賞者が続出

今年度も文芸部門で多くの入賞者がでました。

・第34回県高等学校総合文化祭
俳句の部　優秀賞
2年　山中洋美
詩の部　優良賞
1年　今井彩花
短歌の部　優良賞
3年　笹　有未

・第12回りんり俳句大賞
銀賞　3年　齊藤　舞
銅賞　2年　柿木　舞
銅賞　3年　成田香央里

柴田幼稚園

おじいさん おばあさんへ クリスマスプレゼント

12月19日、弘前静光園デイサービスセンターを利用している方のクリスマス会に年長組35名が出演し、「七つの子」の歌と「おぼろ月夜」のメロディオン奏を披露しました。かわいらしい子ども達となつかしい曲におじいさんおばあさん達に明るい笑顔が広がりました。また、一緒に手遊びをして触れ合い、最後に手作りのペンダントをプレゼントしてなごやかにクリスマス会を終えました。

子ども達からのクリスマスプレゼント、喜んでもらえたようです。

「ステキなペンダント、ありがとう」

東北コンピュータ専門学校

卒業研究発表会 後輩からも熱い視線

1月28日に恒例の卒業研究発表会が行われました。

タブレットを持ってカメラ越しにARキャラクタを探す探検型の学校案内プログラムは「オープンキャンパスで役立ちそう」と特に好評でした。

また、NFCカードリーダーとクラウドサービスの連携やアイトラッキングの内容について専門的な質問があったり、参加企業の方から助言を頂いたり、良い勉強の場ともなりました。

【研究テーマ】
1．ARを用いた体験型学校案内
2．第3のスマートフォンOSとﾋｭｰﾏﾝｲﾝﾀｰﾌｪｲｽの可能性
3．NFCの可能性
4．ペンドロイド ～PCとスマートフォンが生み出すプレゼンの新しいスタイル～

ドロイド君を探せ！タブレットで探検!!
（ＡＲ＋写真＋動画で学校紹介）

ミュージカルスター誕生か!? 保育科2年 保育実践演習

12月24日に保育科2年が、10月から取り組んできた劇「シンデレラ」「となりのトトロ」と、ミュージカル「美女と野獣」「アラジン」を50講義室で発表しました。工夫された音響・衣装・背景が役者の演技や歌・踊りをきわ立たせ、感動の舞台となりました。

野獣の優しさに気づくベル

雨の日 バス停にトトロが…

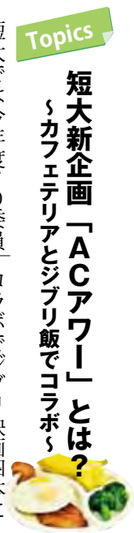
Topics

短大新企画「ACアワー」とは？ ～カフェテリアとジブリ飯でコラボ～

短大では今年度FD委員が中心となってACアワー（A＝アカデミック、アクティブ、アメージング、C＝カルチャー、クリエイション、コミュニティの頭文字）を実施しました。

この企画は、身近なテーマについて、学生と教員が自由な雰囲気で話し合ったり、作ったり、考えたり、出かけたりすることで、学生の創造力や行動力を伸ばしていきたいと始めたものです。その一例として、12月に生活科の給食管理実習（カフェテリア実習）とのコラボでジブリ映画四本に登場する料理を再現。「厚切りベーコンエッグ・トーストか塩おにぎり・シチュー・バナナ」のメニューを、音楽や映像が流れる中で食べて好評でした。

「シータのシチュー」のお味はいかが？



柴田学園創立 90 周年記念特集

●昭和のアルバムから

「2020 年 東京五輪」が決まって、にわかにクローズアップされている 1964（昭和 39）年の東京オリンピック。日本が経済大国に登りつめていく高揚感漂う中で、学園が急成長していった昭和後半の**あの日あの時**を、各校から寄せられた写真とコメントで見つめました。編集と紙面の都合で写真の内容が片寄ったり、年号が順不同になりました。掲載できなかった写真については、次の機会を待ちたいと思います。

旧豊原校舎

児童学科第２回生（昭 54）
現在校長・教頭職の人もこの中に

公衆衛生学：臼谷三郎先生の講義（昭 55）

授業の合間におしゃべりがはずむ。今も昔も変わらない講義室風景（昭 58）

東北女子大学

昭和 44 年東北女子大学開学。学都弘前において、国立と並ぶ私立 4 年制大学として、次第にその存在感を増していった。特に堅実な教員養成は県内外に知れわたり、首都圏にも優れた人材を送り出している。平成 22 年清原新校舎に移転。今回の特集では旧豊原校舎で過ごした学生のエネルギー溢れる大学生活に焦点をあてて みた。

現学長小澤喜先生
（弘大からの非常勤時代）（昭 58）

古い山の家で１年生の合宿研修会。カメムシと共に…

「がんばって行こうぜ！」
運動会での佐藤清先生

運動会でロックエアーバンド（昭 54）

山崎祥子先生のメッゾソプラノ独唱会（昭 48）

松田聖子か中森明菜か。髪に注目！

学園祭で教員の出し物（キンキ・キッズ）
輝くビンボン玉のイヤリングがステキ
後列：筧野、秋田谷、藤田、太田、森
前列：河内、山崎、真下

航空写真による豊原校舎前の人文字「大」
柴高円形校舎棟は、まだ緑が多い（昭 63 頃）

体育研究生（中央は藤田、河内）（昭 60）

本部事務局のみなさん（昭 53）中央は今村誠城事務局長
後列：一戸、葛西、三上、松岡、雲田、今村、荒野、太田、石岡
前列：前田、鰐名、花田、渋谷、宮野、武田、斉藤

今村敏校長。椅子に正座の談書姿が印象的（昭 36）

特集　みちのくスキーの名門校 SHIBATA

柴田女子高校とスポーツ

第２弾　スキー部

柴田女子高校スキー部の「温故知新」

輝かしい歴史

青森津軽の柴田女子高校スキー部が全国制覇を飾ってから38年。近年のスキー部の活躍は校歌「世はさまざまに変れども、かはらぬものは人の道」と同様に、先生・先輩が築きあげた伝統を脈々と受け継ぎ、いま新たな芽吹きが開花の兆しをみせている。

柴高スキー部は昭和27年部員二名で発足した。創部5年後に県下高校スキー初入賞・国体での入賞を果たし、活躍の場は一気に全国大会へ。高橋武一監督ら関係者による不断の精進の甲斐あって、昭和50年インターハイで念願の総合優勝を果たし、柴田女子高校の名は全国に広まっていく。その活躍ぶりを年表でたどる。

本県初の冬季オリンピック選手
赤坂明子さん（昭和47年）

▶県高校スキー選手権リレー初優勝（昭和32年）

【年表】昭和32年～昭和50年

32年　県大会で前田愛子・福士ひさ・三上千恵子がリレー競技優勝。神鍋山大会でリレー競技参加入賞

33年　鳴子大会で中村恵美子が距離競技優勝

34年　新井大会で前田、中村、酒田慶子がリレー競技優勝

35年　小樽大会で酒田、中村、坪谷浩子がリレー競技優勝

44年　水上大会で赤坂明子が距離競技優勝
赤坂は卒業後「札幌オリンピック」の代表選手として選ばれ、世界の強豪と技を競った。

45年　飯山大会で赤坂、木田英子、神久美がリレー競技優勝

50年　名寄大会で中村結華、山口紀子、築舘富士子、櫛引ひとみのリレー、倉岡恵子、佐々木百合子のアルペン
中村・山口の距離陣の活躍により総合優勝を成し遂げる

※インターハイは地名で表記

【年表】平成23年～平成25年

23年　県大会アルペンで押味輝・寺井えりか・四戸知佳が活躍し29年ぶりに総合優勝。八幡平大会大回転で押味2位、寺井7位、四戸10位入賞。秋田国体で押味が大回転優勝。寺井3位、四戸8位入賞

24年　蔵王大会で村中歩美が大回転9位入賞。岐阜国体で四戸が大回転6位入賞

25年　札幌大会で押味が大回転2位、四戸6位入賞。総合4位入賞。秋田国体で押味が大回転優勝、四戸9位入賞

平成23年のスキー部の活躍は、青森県スキー史上に残る快挙として新聞やテレビで報道され、25年大会では29年ぶりの総合優勝を果たし、シバタのスキー部健在を印象づけた。現在部員

名門の勢い復活

しかし、栄光の座は昭和50年の大会から下降線をたどり、鳴かず飛ばずの日々が続き、学校関係者やスキー部の卒業生に苛立ちを覚えさせるまでに至った。

そして平成17年、オリンピック代表選手の育成に携わり国際大会の経験も豊富な神和人監督が就任。復活の兆しが成績に現れた。

写真提供：東奥日報社

国体大回転競技で優勝した押味選手（平成25年）

インタビューから

神　和人監督

スキー場にいると「選手よく頑張ったね。」「私も柴田高校終わったんだよ、嬉しいね！」と沢山の方から声をかけて頂き大変有難く胸が詰まる思いでした。

その時思い出したのが、故今村城太郎理事長の仰った「スキー部が活躍せば津軽のりんごを作っている人や出稼ぎさ行ってる人達、皆の励みさなるはんで頑張ねばまねよ」の言葉でした。自分の学園だけでなく、青森津軽の風土を見据えた言葉の偉大さを今も鮮明に覚えています。

ここ2年の成績で「柴田女子高校スキー部の栄光」に少し近づいたと感じていますが、スキー部の活躍が学園・柴田女子高校の発展につながるよう、これからも選手と共に頑張ります。

左から廣瀬、工藤、竹中、神監督

【部員（出身高校）】

竹　中　葉　月　2年
（宮城県仙台市泉区館中学校）

工　藤　さゆみ　1年
（北海道空知郡奈井江中学校）

折　口　美　沙　1年
（大阪府堺市旭中学校）

廣　瀬　菜　実　1年
（島根県松江市松徳学院中学校）

エッセー
ひととき

あれから35年 出会いを大切に

柴田女子高等学校
校長　森下好宣

昭和54年3月3日の卒業式から35年の月日が流れた平成25年8月11日に、教師になって最初に担任し卒業させた3組のクラス会が弘前プリンスホテルで開かれました。

当時はクラス替えがなく3年間の持ち上がりでした。45人入学して2人が退学し、三年の時に1人が転校して来て44名が卒業しました。卒業記念に私から平山萬年堂に依頼して、全員が結婚できるように名前のみを彫ったデスクペンと、高校で一度だけ出した思い出の「柴高ねぷた」を描いた絵馬を贈りました。このクラスの生徒との出会いが、今日の今まで教師を続けさせる縁となったと思っています。

卒業の時、七年ごとにクラス会をしようと決めていましたが、これまで開かれたのは一回で、今回は24年ぶりの再会でした。

この機会に記憶の復元をと書斎の棚をさがしてみたら、学級日誌5冊が出てきました。それぞれに表題があり、一年生は「学級日記」、二年生は「車だん吉とそのかわいい生徒たち」「お姿ちゃんの縁側日記」など、あの時代がわかる懐かしいものでした。あらためて交換日記を読んでみると、生徒がその時その時に思ったことや周りの出来事を細かく書いてあるのにびっくりしました。例えば、「御三家（郷ひろみ・西城秀樹・野口五郎）の誰が好きですか」「どんな本を読んでいますか」という質問から、「交通ストでやっと登校した」「タべこんな詩に出合った」というその日の事実。そのほか「風と共に去りぬ」など映画のことや、部活・友達・成績・恋・進路の悩みとか様々でした。少し年の離れた妹のような彼女たちとの交換日記から、思春期の気持ちや悩み、教師としての距離感など、多くのことを学んだように思います。

クラス会の挨拶で、「皆さんから学んだ多くのことが、今まで教員を続ける原動力になった」と感謝の気持ちを伝えました。会が進む中で、仕事に生き生きと頑張る人、親の介護に頑張る人、子育てを終え孫に恵まれた人、四十路を過ぎて伴侶を得た幸せな人など、愛しい教え子たちが、今も立ち止まることなくたくましく前進しているのを見て、心ゆたかな時間を過ごしました。

そして、みんなから「先生、もう少しだけ頑張って」と背中を押されたように感じ、この3組との運命的な出会いをいっそう大切にしたいと思いながら幸せな気持ちで家路につきました。

◇同窓会だより

平成25年度 柴田学園同窓会開かれる

昨年9月1日に柴田学園同窓会総会・懇談会が弘前プリンスホテルで開催され、90名が出席しました。

総会では荒城会長のあいさつの後、柴田女子高校同窓会・泉副会長を議長に、前年度の事業や決算の報告、来年度予算についての審議があり承認されました。

次に、同窓会審議委員会の荒城委員長から本部同窓会の存続案や、各学校別同窓会の自主的活動を認める案などを、平成26年度の総会までに承認してもらうべく審議を進めている旨の報告がありました。

また、総会終了後に各校所属長を招いて懇談会が行われました。本年度は学園創立90周年にあたるため、柴田やす先生、今村敏先生の思い出を語り合うことになりました。

今村敏先生との思い出を語る荒城会長

したところ、普段聞くことのできない貴重なお話がたくさん出て大いに盛り上がりました。和やかな雰囲気のうちに閉会となりました。

先輩からのメッセージ

◎東北女子大学家政学科
平成21年卒

北畠麻希子

中学校教員になりたいという夢を叶えるため、柴田女子高等学校から家政学科に進学しました。4年間の講師を経て、昨年神奈川県の教員採用試験に合格することができました。これまでたくさんの方にお世話になり、感謝の気持ちでいっぱいです。

大学時代は水泳部に所属し、東北地区大学総合体育大会で入賞することができたり、学園祭ではアパレルCAD部門のリーダーとして活動したり、貴重な経験ができたことは、とても幸せなことでした。

慌ただしい毎日ですが、子どもたちの笑顔に接することを最大の喜びと感じながら、元気に仕事をしています。

平塚市立大野中学校教諭

◎東北栄養専門学校
平成23年卒

古川祐子
（旧姓神山）

栄養士として市内の病院で患者さんの給食管理、栄養指導の業務をしています。

一年目は先輩に教わりながら業務を覚えていき、二年目からは先輩が産休のため一人で行うことになりました。患者さんは経験年数など関係なく、プロとしての私に頼ってきます。知識はもとより、話し方や接し方で信頼度や受けとり方が大きく変ってくるので、毎日必死に勉強しました。

今は私が産休を頂き、育児の真っ最中です。子どものためにも生き生きした母でいられるよう、私のチャレンジは続きます。

ESTクリニック栄養士

学園TODAY　　学園TODAY

高　校

栄　専

コンピュータ

幼稚園

～2013～
学園の秋は祭一色

大　学

短　大

学校法人 柴田学園　INFORMATION

■柴田学園本部	〒036−8503 弘前市上瓦ヶ町25番地	☎0172−32−6151	E-mail shibahonbu1923@diamond.broba.cc	理事長　今村吉彦
■東北女子大学	〒036−8530 弘前市清原1丁目1番地16	☎0172−33−2289	E-mail zimu@tojo.ac.jp	学長　小澤　熹
■東北女子短期大学	〒036−8503 弘前市上瓦ヶ町25番地	☎0172−32−6151	E-mail gakumuka@toutan.ac.jp	学長　今村吉彦
■東北栄養専門学校	〒036−8503 弘前市上瓦ヶ町12番地1	☎0172−32−6152	E-mail eisen@tcomp.ac.jp	校長　今村吉彦
■東北コンピュータ専門学校	〒036−8503 弘前市上瓦ヶ町12番地1	☎0172−32−6154	E-mail comp@tcomp.ac.jp	校長　今村吉彦
■柴田女子高等学校	〒036−8154 弘前市豊原1丁目2番地1	☎0172−32−0135	E-mail kanri@shibajo.ed.jp	校長　森下好宣
■柴田幼稚園	〒036−8163 弘前市清原1丁目1番地1	☎0172−32−6518	E-mail shibayo1@jomon.ne.jp	園長　神　恵子

編集後記

学園創立90周年特大号の続編として、本号では「昭和のアルバムから」を特集しました。熱き心とゆったり感が、人々に大きな希望を抱かせた昭和後半の古き良き時代。健全な精神で前むきに歩んだ学生、生徒、教員の交流を追いました。

さて、改装なった弘前市民会館で２年ぶりに行われる４校合同卒業式も間近になりました。色鮮やかな棟方志功作の緞帳、ドイツで修復されたピアノ、そしてステージには復元された学園旗。古きを蘇らせて次世代へつないでいこうとする温もりが伝わってきます。　柴田学園報編集委員会